

悪性腫瘍における台湾中医薬治療の現状

陳 志芳*

台北市中医師公会理事長

台湾衛生行政部門である「衛生署」によると、2009年に台湾の十大死亡疾患では、悪性腫瘍は一位となり、死亡人数 39971 人、病気による死亡総人数の 28% を占めており、平均的に 13 分 10 秒に 1 人は悪性腫瘍により死亡している。悪性腫瘍の疾患別をみると、死因の前の 10 種類悪性腫瘍は肺癌、肝癌、结肠直腸癌、女性乳癌、胃癌、口腔癌、前列腺癌、食道癌、膵臓癌、子宮頸癌を並べている。

悪性腫瘍による死亡疾患は 2009 年から遡って 28 年間に連続して一位を占めている。

悪性腫瘍の治療現状において現代医学を主としているものの、中医薬は代替補完的な役割をはたしている。中医薬の臨床研究に従い、中西医結合的な治療法は注目されている。悪性腫瘍における中医薬の治療は効果があり、台湾での中西医結合治療は下記の通りです。

一、単なる中医薬の治療

白花蛇舌草、半枝蓮、魚腥草、竜葵などの「清熱解毒」という中薬を用いている。人參、黄耆、白朮、茯苓等の「補脾益氣」という中薬を配合し免疫力をたかめることをはかる。

二、現代医学的な治療の補完：

1. 手術治療の補完：手術前に「補氣養血」、「健脾益氣」、「滋養肝腎」などの中薬を用いて体力を高めることをはかり、術後の合併症の減少に寄与する。術後、補氣養血、養陰生津または脾胃調和などの中薬を用いて、術後の回復並びに化学療法や放射線療法の為に体力を高める。
2. 放射線治療の補完：中医学理論によると、放射線治療は「耗氣傷血」、「傷陰灼津」ということにより、皮膚損傷、「脾胃失調」や「肝腎損傷」等の副作用があり、「清熱解毒」、「養陰生津」、「涼血補氣」、「滋養肝腎」あるいは「健脾和胃」的中薬を用いて臨床症状を改善する。
3. 化学治療の補完：化学治療は造血器系、免疫器系、消化器系並びに神経器系に対して毒性・副作用があり、「扶正祛邪」、「補氣養血」、「滋養肝腎」、「健脾和胃」、「利尿滲湿」及び清熱解毒」など中薬を用いてその臨床症状を緩和する。

三、現代医学治療後のケア：現代医学的な治療後に薬膳療法及び中薬を継続にさせ体内免疫力をたかめることを目標としている。

1998 年に WHO は第 50 回年会で統合医療 (Integrated Medicine) を打ち出し、それを「21 世紀の医学モデル」に位置付けをしている。悪性腫瘍における中西医結合的な療法はそれを実践している、それは多くの患者に希望をもたらし、生命質 (QOL) を高めることに寄与している。

キーワード：悪性腫瘍 中医薬 台湾現状

* 地址：10665 台湾台北市復興南路二段 131 号一樓 (杏福中医診所)

電話：02 27551587 傳真：02 27551637 E-mail: eugeneyea@gmail.com